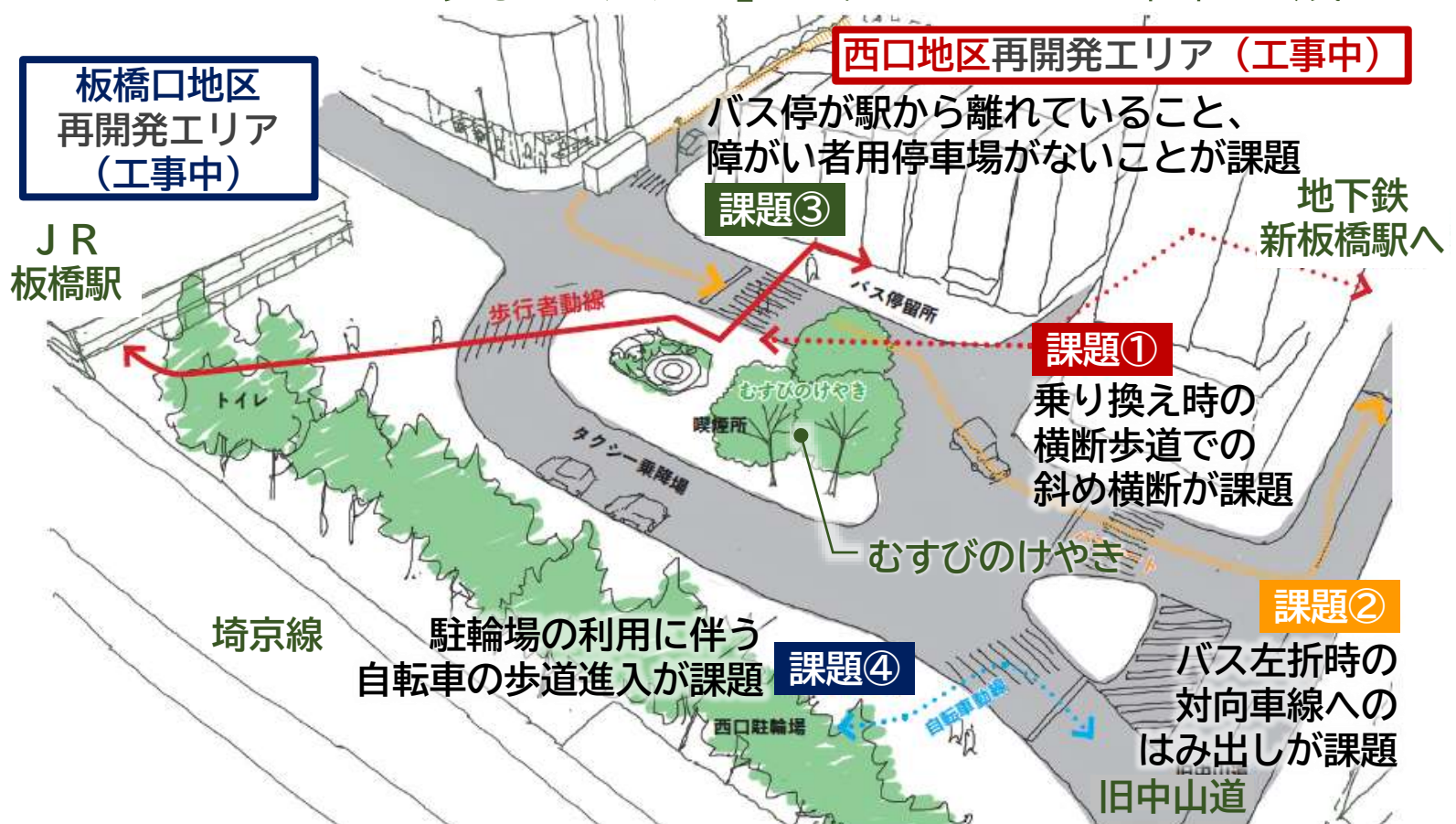


現在の駅前広場の課題

人と車が混在することで生じる安全性の課題等の解決を図ります。
シンボルである「むすびのけやき」は、そのままの位置に残します。



課題① 板橋駅⇄新板橋駅の乗換え時の横断歩道の斜め横断



課題② 旧中山道へのバス左折時の対向車線へのはみ出し



課題③ バス停が駅から離れている 障がい者用駐車場がない



課題④ 駐輪場の利用に伴う 自転車の歩道進入



防災・防犯について：安心安全な駅前広場へ

緑の環境整備は、循環型社会のシンボルとなるとともに、都市型災害（内水氾濫等）に対する対応力を高めることにつながります



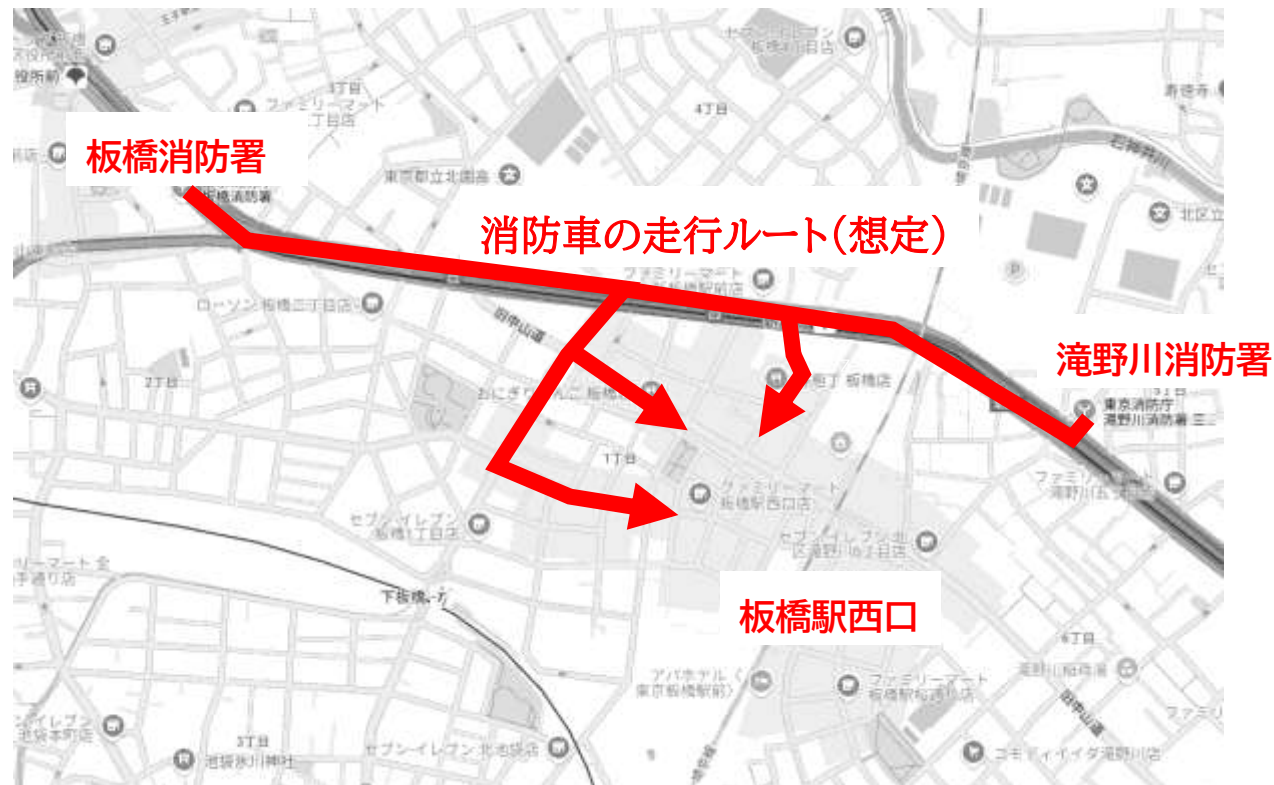
- 交通機能

- 雨水の一時貯留機能 = レインガーデン

- 災害時の一時避難スペース = 余白

緊急車両の走行について

当該地区の緊急車両経路としては、消防署が国道沿いにあるため下板橋通りから旧中山道・グリーンロードを経由するルートが想定されます



地域コミュニティをつなぎ、
地域活動の受け皿となり、人のつながりを育てる場へ

「番屋」の設置を計画しています

● 番屋の機能

- ・ 情報発信機能
- ・ 地域活動・防災用の倉庫機能
- ・ 見守り機能

番屋
(移動式)



えんのもりを「つかう」「まもる」仕組みづくり



えんのもり
スクール
en no mori school

えんのもりの豊かな空間は、まちづくりの事業による「つくる」だけでは成り立ちません。
住民、事業者、町会、商店街、行政など、地域に関わる主体が、空間を「つかう」方法や
「まもる」ための維持管理の新たな仕組みを、皆で考えていきたいと考えています。

「えんのもりスクール」は、まちづくりを実践してきた方による講義やまちあるき、空間
の使い方のワークショップ等による「学びの場」です。学びから得られたヒントをもとに、
えんのもりの使い方や維持管理のあり方を議論していきたいと考えています。

えんのもりは、まちに関わる人々がまちのことを自分ごとで考え、ともに学び、熟議し、
活動する、そんな広場のような空間をめざします。



学びの場

=

「まちづくりに関するレクチャー」

「使い方のワークショップ」

「緑のイベント・まちあるき」

えんのもりスクールの活動について



ENNOMORI_ITABASHI



板橋区HP

店舗前の利用



市民活動の場



お祭などでの地域連携



ひとつながりの
地域とつながる空間を
みんなで使っていく。

～今年度は「社会実験」と「ワークショップ」を実施します～

将来の駅前広場をより安全で使いやすい空間にするため、今年度は社会実験やワークショップを実施します。また、3DモデルやARを活用しながら、地域の皆さまと一緒に検討を進めます。

安全で快適な駅前空間の実現に向けて
板橋駅西口駅前広場を中心とした2つの再開発エリアを
より使いやすく安全な広場空間にするために、交通への
影響を調べる社会実験やワークショップを行います。

社会実験・交通量調査



将来の線形を想定し、
交通への影響を調査



社会実験イメージ

交通規制

ワークショップ

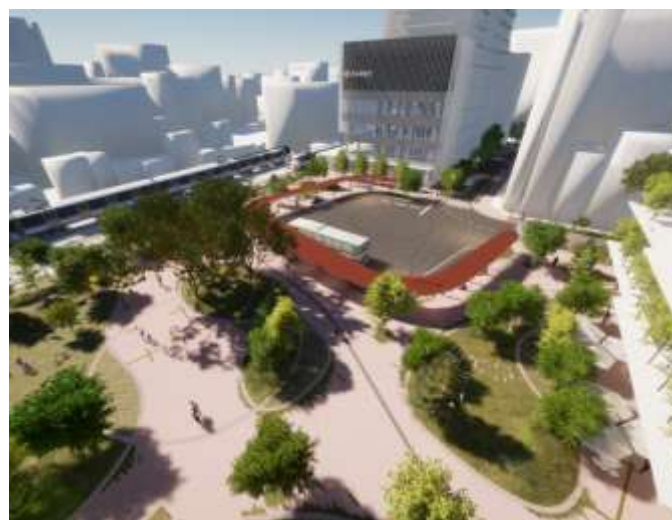
駅前広場がより魅力的で使いやすい場所となるよう、区内の小
学生を対象としたワークショップを実施します。
子どもたちならではの視点やアイデアを集め、今後の駅前広場
の検討に活かしていきます。



未来の板橋駅周辺を“見える化”しながら
まちづくりを進めます

3D都市モデルを活用しながら、地域の皆さまに
分かりやすく情報を発信し、将来のまちの姿を共
有しながらまちづくりを進めていきます。

3D技術を活用した将来イメージの可視化



AR(拡張現実)を活用した分かりやすい情報発信



スマートフォンやタブレットで、未来のまちの姿をその場で体験

ARカードと3Dモデルを活用
した空間レイアウトの検討

「まちの編集ひろば」



4F 公益エリア

これまでの施設コンセプトに、“施設をガイド・編集する”という視点を加え、「マルチファンクション」のスペースをよりオープンにすることで、利用のテーマや用途に合わせて空間をアレンジできるように、施設内の什器を可動にすることとしました。また、いくつかの時間軸で地域を編集して、わかりやすくその時々生き生きとしたまちの様子・魅力が伝わっていく企画・発信を行っていきます。板橋口地区再開発ビル4階につくれる新しい公益エリアは周辺の再開発

ビル、駅前広場、既存の公共施設と連携しながら、区民の様々な活動や交流の場にしていきたいと考えています。施設の企画や活動によってさまざまなコト・モノ・ヒトをつなぎ、そこで生まれる新たなコンテンツが編集・発信されていくことをめざすことから、施設コンセプトを「まちの編集ひろば」としました。駅前広場、ハイレイブラザと合わせると内外にさまざまな活動に対応できる空間が広がっていくことを目指していきます。

目的に合わせた空間利用

さまざまな活動が心地良く同居できるスペースの配置

板橋口地区に新しく建つ商業施設の上階へと上がると、4階に新しい公益エリア（市民のためのスペース）が広がります。そこには、区の取り組みを紹介するスペース、地域活動に使えるスペース、地域や商業施設と連携したイベントや催しができるスペースが、設けられます。用途に合わせてレイアウトを変えながら使うことができ、さまざまな活動が共存できる広場のような施設をつくります。

公益エリア（屋内）と駅前広場（屋外）は、デザインを

そろえて“ひとつながり”に感じられるようにします。そうすることで、4階へ自然に足が向きやすくなり、天候に合わせて屋内外を選んだり、屋内外をつないだイベント運営もしやすくなります。屋内外で素材や色味に共通性を持たせること、屋内の動かせる家具を屋外でも使えるようにすること、駅前広場側に公益エリアと連携する拠点（番屋）を設けることによって、屋内と屋外が一体となり、さまざまな活動が混ざり合う場所をつくっていきます。

① 交流ラウンジ、壁面展示スペース

南側にフワフワのような自由な滞在ができるスペースを設けます。さらに、交流ラウンジからホールの周囲を回遊できるよう、ひとつながりの壁面を展示スペースとしました。中心部ではさまざまな活動が行われながら、壁面の展示が共存できます。区の取り組みを紹介する企画展示や、区民の活動の発表の場など、幅広い用途で活用できます。

② スペースA・B・C

工作、語学講座、会議など、少人数の活動を支える小割のスペースを3つ設けます。活動の規模に応じて、スペースを組合せて使うこともできます。

③ 展望・休憩スペース

駅前広場への眺望が開ける窓際のスペースは、日常時、ホール利用時アクセス可能なベンチを設けた休憩スペースを設けます。

④ ホール

地域のイベントや商業催事、展示にあわせてトークイベントなどができる場所です。ふだんは、駅前広場を眺めながら休める“居場所”としても使えます。

⑤ アーカイブ室

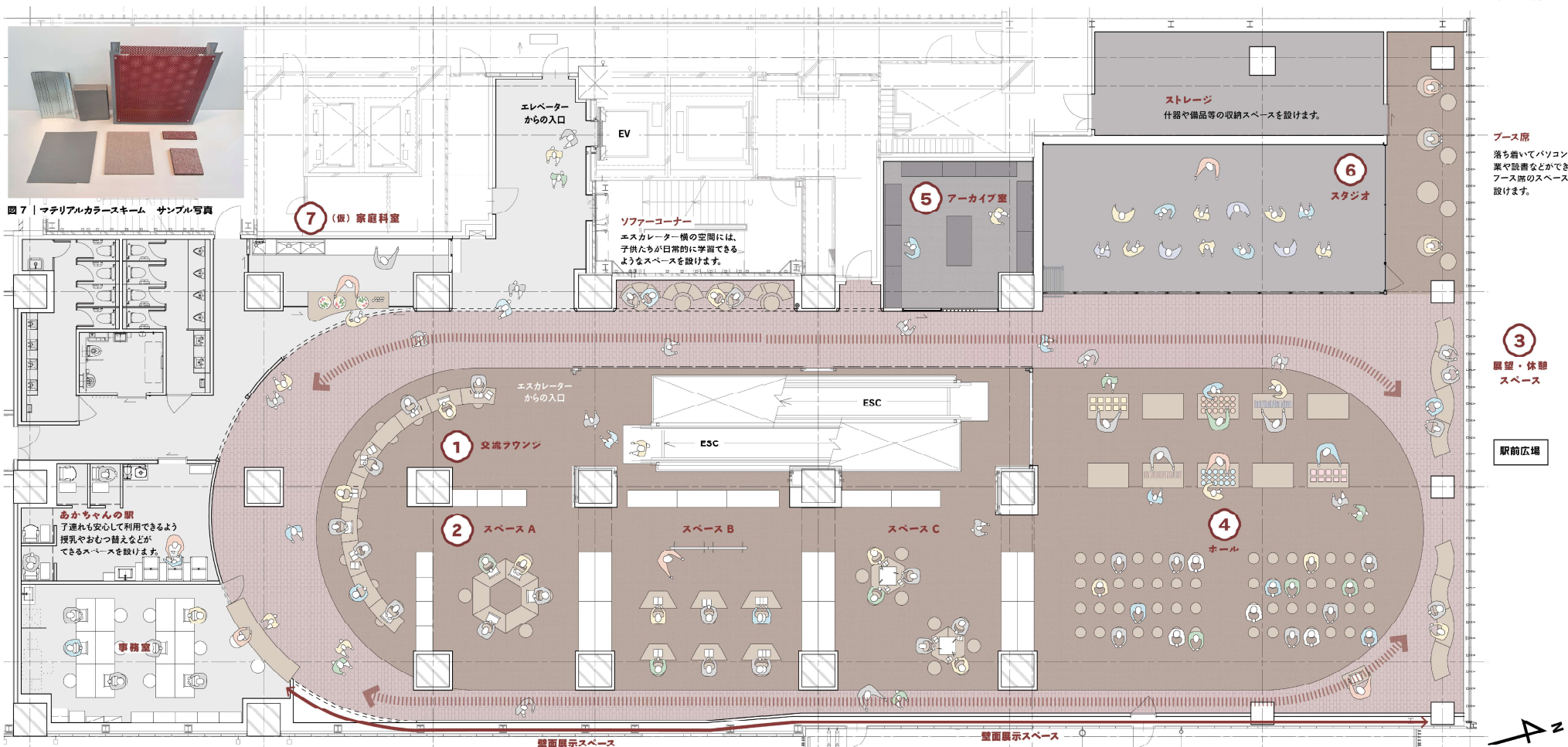
区民のみさんの活動で生まれた制作物などを、一定期間見せながら保管できるアーカイブ室を設けます。壁面展示だけではなく、アーカイブ室を使った小規模な展示企画を行うこともできます。

⑥ スタジオ

ダンスなど音が出る活動にも使えるスタジオを設けます。

⑦ (仮) 家庭科室

書道教室など、水場が必要になる地域活動もできるように、(仮)家庭科室を設けます。最小限のキッチン設備を設置することで、ホール等での日常・イベント時の軽飲食の給仕等にも使えるようにします。



※規模は計画段階のものであり、今後設計で変更になる可能性があります。